

[数学基礎]

t に関する 2 階の線形常微分方程式

$$\frac{d^2}{dt^2}x(t) + 2\frac{d}{dt}x(t) + x(t) = 0 \quad (\text{式 1})$$

を考える. この微分方程式は, 1 階の連立微分方程式

$$\frac{d}{dt}\begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & -2 \end{pmatrix}\begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix} \quad (\text{式 2})$$

と等価である. これらの方程式を以下に従って解け. 初期値を $\begin{pmatrix} x(0) \\ y(0) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix}$ とする.

(1) (式 2) の解を以下に従って求めよ.

- (a) 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & -2 \end{pmatrix}$ の固有値と規格化された固有ベクトルをすべて求めよ.
- (b) 変換行列 $P = \begin{pmatrix} 1/\sqrt{2} & 1/\sqrt{2} \\ -1/\sqrt{2} & 0 \end{pmatrix}$ を用いて, $P^{-1}AP$ を計算せよ.
- (c) 問(b)の結果を用いて, (式 2) の解を求めよ.

(2) (式 1) の解を以下に従って求めよ.

微分演算子 $D \equiv \frac{d}{dt}$ を定義する. 2 次の多項式 $f(u) = au^2 + bu + c$ (a, b, c は定数)

において, D を代入した場合は, $f(D) = aD^2 + bD + c = a\frac{d^2}{dt^2} + b\frac{d}{dt} + c$ と記述で

きる. このとき, 問(d)~(f) に示した式を証明せよ.

- (d) $f(D)e^{\alpha t} = f(\alpha)e^{\alpha t}$
- (e) $f(D)[e^{\alpha t}x(t)] = e^{\alpha t}f(D + \alpha)x(t)$
- (f) 線形微分方程式 $(D - \alpha)^n x(t) = 0$ の一般解は,

$$x(t) = (c_0 + c_1 t + c_2 t^2 + \dots + c_n t^n)e^{\alpha t}.$$

ただし, c_0, \dots, c_n および α は定数とし, n は正の整数とする.

- (g) 上記の問(d)~(f)の結果を踏まえて, (式 1) の解 $x(t)$ を求めよ.

(3) 以下の常微分方程式の特殊解を求めよ.

$$\frac{d^2}{dt^2}x(t) + 2\frac{d}{dt}x(t) + x(t) = te^{-2t} + e^{-t}$$